

平成 2 8 年 度 委 託 研 究 開 発 成 果 報 告 書

I. 基本情報

事業名： (日本語) 研究公正高度化モデル開発支援事業  
(英語) Research and Development Program for Enhancement of Research Integrity

研究開発課題名： (日本語) 研究倫理教育に関するモデル教材・プログラムの開発  
(英語) Research and Development of Model Teaching Material/Program for Research Ethics Education

研究開発担当者 (日本語) 国立研究開発法人国立循環器病研究センター 研究開発基盤センター  
医学倫理研究部長 松井 健志

所属 役職 氏名： (英語) National Cerebral and Cardiovascular Center, Research and Development Initiative Center, Director of the Department of Research Ethics and Bioethics, Kenji Matsui

実施期間： 平成 29 年 1 月 6 日 ～ 平成 29 年 3 月 31 日

研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人東京大学医科学研究所 准教授 井上 悠輔

所属 役職 氏名： (英語) The University of Tokyo, the Institute of Medical Science, Associate Professor, Yusuke Inoue

研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人徳島大学病院臨床試験管理センター 准教授 楊河 宏章

所属 役職 氏名： (英語) Tokushima University Hospital, Clinical Trial Center for Developmental Therapeutics, Associate Professor, Hiroaki Yanagawa

研究開発分担者 (日本語) 国立大学法人東北大学病院臨床研究推進センター 特任教授 高野 忠夫

所属 役職 氏名： (英語) Tohoku University Hospital, Clinical Research, Innovation and Education Center, Special Appointment Professor, Takano Tadao

## II. 成果の概要（総括研究報告）

### 和文

初年度となる平成28年度は、研究期間が2か月半程度と限られているため、本期間に進められる事項は限定的であった。

契約開始後、先ず、研究開発代表者、研究開発分担者の顔合わせを行ったのち、本研究課題の進め方及び各機関での作業内容について確認を行った。そのうえで、研究開発代表者、研究開発分担者、及び研究開発協力者がこれまでに扱ってきた過去の研究倫理コンサルテーション等での相談対応事例をそれぞれ精査する作業を開始した。

事例を精査する中で、本研究開発で育成を目指す研究倫理準専門家／研究倫理コンサルタントが、倫理的思考様式を習得し、倫理的行動の判断基軸を修養するために特に有用と考えられる演習教材用事例となりそうな、候補となる事例のいくつかを各機関で抽出した。

抽出された候補事例が複数になった時点で、それぞれの事例を各機関で持ち寄ったうえで、第1回班会議を開催し、演習教材の全体像、構成・体裁、内容の方向性等について集中的な議論を行い、研究班全体での認識の共有を行った。

### 英文

As the project term for the first year was just for 2.5 months, our outcomes of this fiscal year were quite limited. At the first meeting among the core project members, we shared the outline and the schedule of the entire project, and discussed necessary works to be accomplished at each institution by the end of the fiscal year. We then started to investigate the record of actual research ethics consultation cases in the past which the each member has dealt with at his institution. Through this investigation, the each member extracted several candidate cases being considered for further analyses to be developed as teaching and training materials of research ethics. We then discussed those cases and shared the entire picture and the fundamental architecture of educational material/program to be developed.

## III. 成果の外部への発表

(1) 学会誌・雑誌等における論文一覧（国内誌 0件、国際誌 0件）

該当なし。

(2) 学会・シンポジウム等における口頭・ポスター発表

該当なし。

(3) 「国民との科学・技術対話社会」に対する取り組み

該当なし。

(4) 特許出願

該当なし。

